

水コン協・定時社員総会
＜業務領域拡大 地位向上へ＞
新会長に村上N J S 社長

水コン協

業務領域拡大 地位向上へ

新会長に村上N J S 社長

全国上下水道コンサルタント協会は14日、都内で第37回定時社員総会を開き、役員選任を承認したほか、公益社団法人への移行、平成30年度事業計画などを報告した。総会後の理事会で、新会長に村上雅亮N J S社長が就き、「上下水道コンサルタントは公衆衛生や環境保全に携わるといって高い公共性がベースにある。それを前面に出し、地域に貢献する姿を鮮明にし、活躍の場を広げ、社会的地位向上に努めていきたい」との抱負を語った。前会長の野村喜一日水コン社長は副会長となった。



野村前会長



村上新会長



公益社団法人移行後、初の開催となった総会

水コン協は4月1日、一般社団法人から公益社団法人に移行した。移行開始。活動領域の拡大・発展の検討は平成28年5月の理事会で承認を受けて開始。活動領域の拡大・発展の検討は平成28年5月の理事会で承認を受けて開始。活動領域の拡大・発展の検討は平成28年5月の理事会で承認を受けて開始。

展、会員の地位向上につながるなどの判断から、昨年6月の定時社員総会で移行を承認していた。今後は協会活動を深化させ、上下水道技術に関する調査研究、事業者への要望・提案活動、人材育成などに取り組んでいく。30年度は中期行動計画の第一期が終わるため、中間評価を行って見直しを図るほか、会員企業所属社員などの実態調査結果を踏まえた協会施策の

方向性を検討する。また、ノーマル残業アターの協会統一キャンペーンの継続実施、積算関係資料の提案、災害時支援者育成講習会の開催等に取り組む。また、総会では任期満了に伴い、理事24人、監事2人を役員に選任し、その後の理事会で新会長に村上社長を選任した。総会冒頭、野村前会長があいさつ。「当協会は公益社団法人に移行し、社会的責任が重たくなった。業界の発展から、コンサルタントという業種の発展へ大きく舵を切った中、上下水道業界の主要軸として活躍していく必要がある」とし、さらなる協会発展に向けた協力を呼びかけた。

村上新会長は理事会後のあいさつで「これまで当協会を牽引していただいた野村前会長の成果は大きい。そのパッション、ポリシーを受け継いで協会活動の発展に尽力したい」と感謝を述べ、今後の取組み課題として▽要望・提案活動の内容充実▽情報発信の強化▽協会活動の活性化―の三つを挙げた。

要望・提案活動では、事業者などと直接意見交換していくことがコンサルタントの地位向上に重要だと指摘し、下水道施設改善への国庫補助継続などに向けて関係者と連携して活動していく必要があるとの考えを示した。

情報発信は公益社団法人として、学生や一般市民も対象に入れて幅広く展開し、上下水道の重要性、コンサルタントの役割や魅力を発信していくため、強化を図りたいとした。協会活動の活性化に向けては「水コン協は中期行動計画の見直し時期であり、上下水道は転換期を迎えている。その変化の中でコンサルタントの方向性、役割、協会のあり方について地方支部を含めて議論したい」「コンサルタントの業務領域を広げていくことが求められているが、それに対応しながら、コンサルタント一人ひとりが生きがい、やりがいをもって仕事ができる、成長ができる環境を整備できるように尽力する」と語り、協力を呼びかけた。

このほか、表彰式が行われた。受賞者は次の通り。(敬称略・順不同)

- 【功労賞】池田信己 (オリジナル設計)
- 【有効賞】「遠方監視制御設備情報ネットワークの再構築」七村由貴江 (NJS) ▽「DBO方式による広域汚泥処理事

- 業」尾浪正晴・坂本勇 (東京設計事務所)
- 【新技術奨励賞】「無人航空機による下水道管きよの点検調査技術」稲垣裕亮 (NJS) ▽「画像センサーを用いた焼却炉閉塞抑制技術の開発」塚原純哉・村田道拓 (白水コン)
- 【協会活動表彰】「公益社団法人への移行に向けた取組」山本哲彦 (水コン協総務委員長) ▽「下水道事業に関する施策への提案・支援活動」牛原正詞 (同下水道委員長)